

平成24年度ニホンザル及びアカゲザル合同検討会資料

第 1 部 「アカゲザル及びアカゲザルとニホンザルの交雑個体の防除事業 (ニホンザル生息域を除く) について」

1 平成23年度調査及び防除事業について

(1) 平成23年度調査について

① 群れ別行動域 (ラジオ・テレメトリー法による方探調査、区画法ほか)

地域	群	集団	行動域	行動域面積	備考
西側地域	ミヤコ群		館山市長岡、小塚、南房総市大作場	0.6km ²	大型捕獲檻の捕獲により、個体数減少、行動域縮小。行動域が北にシフト。
	オタキ群	オタキ集団	館山市布良、大神宮、小塚、神余、畑、南房総市曲日、滝山、大台、滝口、大作場、砂取、根本、館山市神余及び畑と南房総市大井倉の間の山間	12.9km ²	行動域が拡大した。
		アジサイ集団	館山市畑集落の北側	0.8km ²	
		ススキ集団	南房総市曲田、大台から北北東側	3.6km ²	
		カボチャ集団			
		タキミ集団	館山市大神宮、小塚、南房総市大作場、砂取、根本	1.0km ²	
		スズシロ集団	館山市大神宮、南房総市大作場、砂取、根本	3.8km ²	
		クワ集団	館山市布良、大神宮、小塚、南房総市大作場、砂取、根本	2.8km ²	行動域が西側にシフト。
小計	2 群	7 集団	オタキ集団から 3 集団が分裂(ススキ集団、アジサイ集団、カボチャ集団)→3 集団増		
東側地域	ヨモギ群		南房総市本郷、大台、滝山、東横渚、青木、塩浦	2.1km ²	
	アザミ群		南房総市名倉、塩浦、乙浜、白間津	1.8km ²	集中利用地域は東側へシフト。
		ツルウメ		1.1km ²	ミヤコ群に属していた「ツルウメ」(避妊メス)を東側地域に放したが、放獣後、目視できない状況が続いている。大きな群れに加入していない可能性がある。
		その他	3~4 集団		昨年度の区画法により 3~4 集団を発見したが、今年度は、1 集団のみ。詳細不明。
小計	2 群	3~4 集団			ヨモギ群、アザミ群の他に、3~4 集団が生息している可能性。
北側地域	不明	オキク・ハゼ集団		4.1km ²	ミヤコ群のメス 2 頭(オキク、ハゼ)に不妊処置し、北側地域に放獣したもの。 平成 23 年度調査では群れへの合流を確認できず。

その他の不明集団の情報

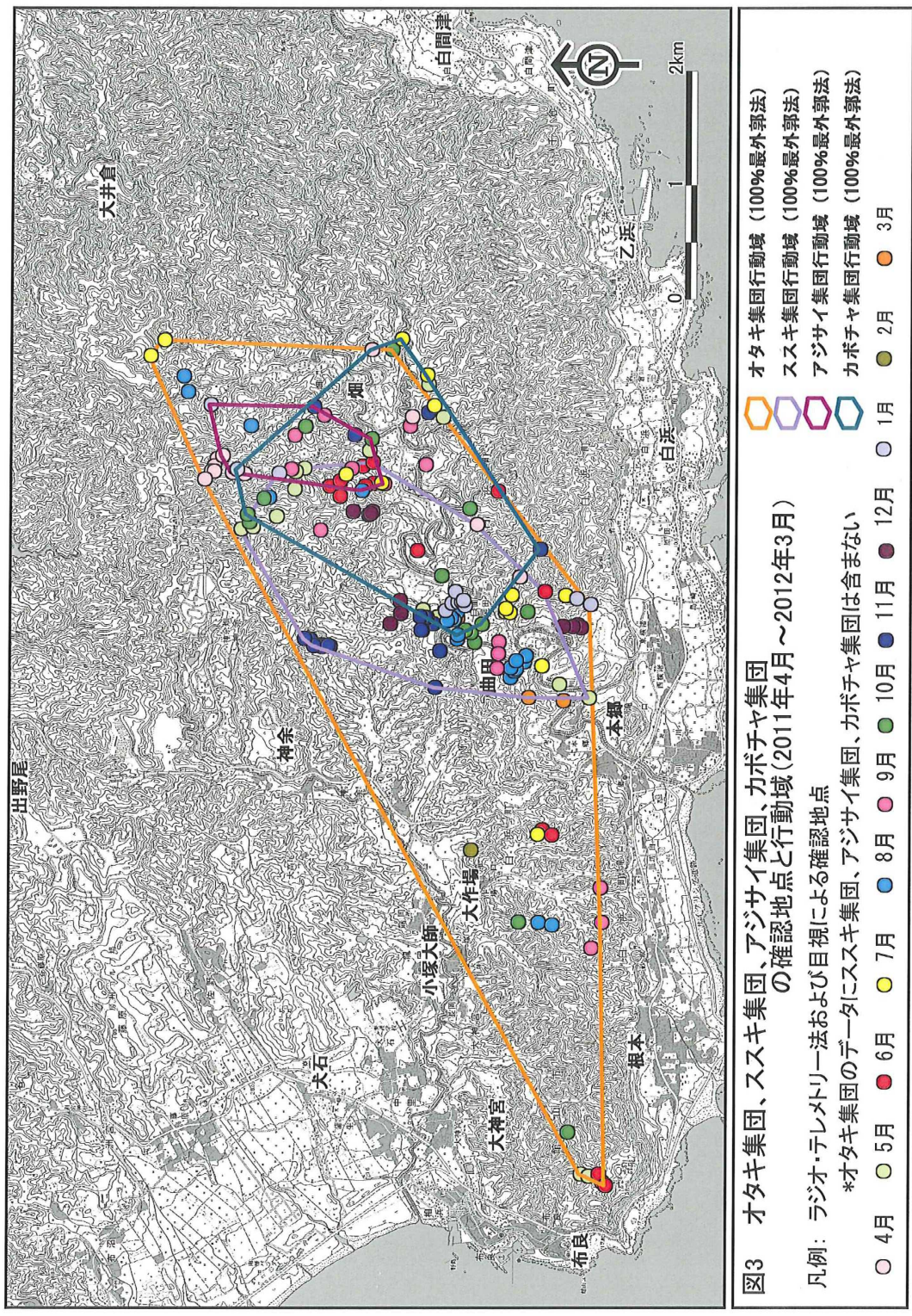
A. 加藤集落（神余の南）：大きな集団により、夏から秋に稲などの被害が多発している。

B. 神余～滝口：非テレメータ集団が現れる事があり、Aの集団の可能性もあるが、別の集団の可能性も考えられる。

② 生息数（カウント、自動撮影カメラ調査）

地域	群	集団	調査結果	考察
西側地域	ミヤコ群		H24.1.23:9頭カウント 内訳 不妊テレメス6頭、ワカメス1頭(不妊テレメス)、オトナメス2頭 H24.1.30:コザル1頭撮影 H24.3.10:テレメス1頭、入れ墨テレメス1頭、オトナメス1頭撮影	他の不妊テレメス1頭は別行動している可能性。 不妊テレメス以外は少数になっている可能性。
	オタキ群	オタキ集団	平成24年2月24日:大作場東田圃において101頭カウント	背後の林内にもかなりの頭数がいた可能性もある。
		アジサイ集団		
		ススキ集団		
		カボチャ集団		
		タキミ集団		
		スズシロ集団		
		クワ集団		
	推定生息頭数		平成22年度末推定頭数550頭×増加率1.14—除去数240頭=387頭	
東側地域	ヨモギ群			
	アザミ群			
		ツルウメ→単独の可能性		
	その他	3~4集団	平成23年11月25日:大畑において56頭カウント 平成24年3月2日:サル(性別不明)1頭撮影	
	推定生息頭数		平成22年度末推定頭数350頭×増加率1.14—除去数0頭=399頭	
北側地域	不明	オキク・ハゼ集団	平成24年8月29日:館山市清掃センター裏において3頭カウント 内訳 オキク、ハゼ、オトナオス1頭	大きな群れには加入していない模様。

全域での推定生息数：約800頭（387頭+399頭=786頭）



平成23年度防除事業について

① 捕獲実績

大型囲いわな5基、小型箱わな13基を稼働し、捕獲を実施した結果、新規個体250頭を捕獲し、内、240頭を安楽殺処分し、調査のため10頭のメスに不妊処理した後、電波発信機を装着し、放獣した。

頭

捕獲場所	安楽殺	放獣				捕獲 合計 (延べ)	捕獲 数
		新規電波 発信機装 着	再捕獲		放獣 合計		
			電波発信機 交換	電波発信機 異常なし(延べ)			
館山市	5	0	1	13	14	19	5
南房総市	235	10	1	29	40	275	245
合計	240	10	2	42	54	294	250

② 大型囲いわなの新設

大型囲いわなのなかった東側地域に、大型囲いわなを1基新設した。

2 平成24年度調査及び防除事業について

(1) 事業の実施場所

防除実施計画に記された集中防除区域内（アカゲザル母群が生息する区域、館山市と南房総市の一部）で行う。

(2) 事業の内容

① 捕獲方法

小型箱わな及び大型囲いわなにより捕獲する。

② 捕獲頭数

電波発信機が装着されていない個体を可能な限り最大限捕獲する。
なお、捕獲目的外の鳥獣が捕獲された場合、速やかに放鳥獣する。

(3) 捕 獲

① 電波発信機の装着・放獣

群・集団の状況を把握し効果的な捕獲に資するため、アカゲザル等を捕獲し、電波発信機を装着後、放獣する。

電波発信機

電波を頼りに人が追跡し、位置を記録する。毎日、追跡できるわけではないのでデータがラフになるが、機器が安価で電池寿命も2年程度ある。

② GPS テレメータの装着・放獣

道がなく追跡調査が困難な区域等における群・集団の行動域を把握するため、アカゲザル等を捕獲し、GPS テレメータを装着後、放獣す

る。

GPS テレメータ

移動位置を自動記録することから、人の追跡を要せずに詳細なデータを得ることができる。ただし、機器が高価であり、電池寿命が短いため数ヶ月分のデータしか得られない。

③ 再捕獲個体の放獣

すでに電波発信機等が装着されている個体が再捕獲された場合は、電波発信機の状態を確認し、故障等が見つかった場合は交換した上で、放獣する。

④ 安楽殺処置

①～③以外の個体は、安楽殺処置する。

(4) 調査

① 群追跡調査

大型囲いわなによる捕獲を効率的に進めるため、電波発信機装着個体を追跡し、群・集団の行動域等を調査する。

② GPS テレメータによる調査

大型囲いわなによる捕獲を効率的に進めるため、装着後、自動脱落したGPS テレメータを回収し、データの分析を行う。

③ 未確認個体調査

自動撮影カメラにより、電波発信機未装着個体の調査を行う。

(5) 中間報告

現時点で、下記の頭数を殺処分した。

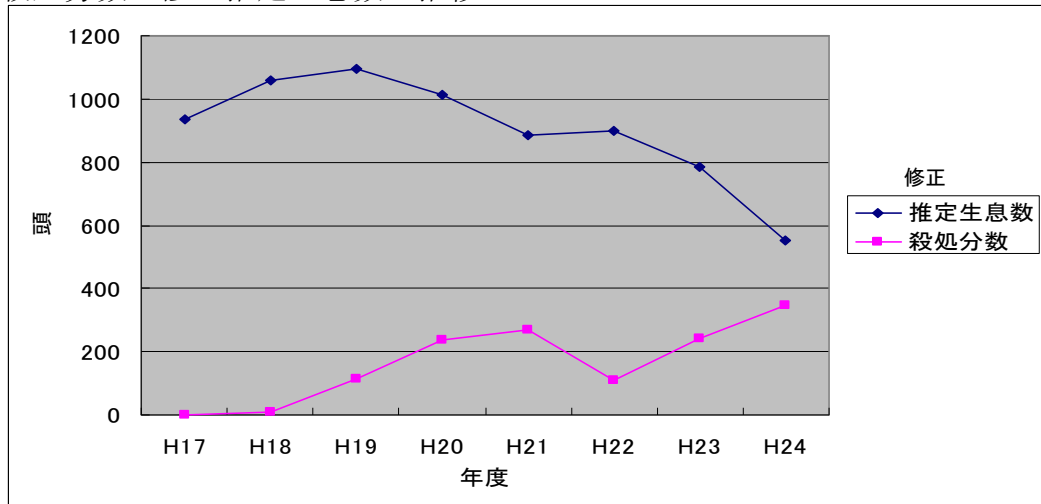
年度	捕獲数 (殺処分頭数のみ)	修正推定生息数 (平成 23 年度推定頭数から逆算。増加率はタイワンザルの 1.14 を使用)
平成 17 年度	2 頭	937 頭 (事業開始当初は 350～380 頭と推定)
平成 18 年度	11 頭	1,057 頭
平成 19 年度	112 頭	1,093 頭
平成 20 年度	235 頭	1,011 頭
平成 21 年度	267 頭	886 頭
平成 22 年度	110 頭	900 頭
平成 23 年度	240 頭	786 頭 (H23 年度推定値)
平成 24 年度 (中間報告)	345 頭	551 頭
計	1,322 頭	平成 23 年度末推定頭数を 786 頭とすると、平成 17 年度と比較し、現時点で約 386 頭の減少 (-41%)。ただし、他に不明集団がいる可能性がある。

※他に、平成 13～17 年度で 36 頭を捕獲している。

※調査が進むにつれ未確認個体が確認され加算をしている。事業開始当初の平成 17 年度生息数を 350～380 頭と推定していたが、平成 23 年度推定値から、毎年の除去数、和歌山県のタイワンザルの増加率を勘案し、逆算すると、約 1,000 頭生息していたことになる。

※ただし、まだ不明集団がいる可能性がある。

殺処分数と修正推定生息数の推移



(6) その他

①第 1 回ニホンザル及びアカゲザル合同作業部会 (H24. 5. 29 千葉市)
平成 24 年度調査及び防除事業等について検討

②アカゲザル等防除連絡会議 (H24. 7. 4 館山市)
アカゲザル生息域内での防護柵の設置等農業被害対策の推進等を決議

③ニホンザル及びアカゲザル市町担当者会議担当者会議 (H24. 7. 30 君津市)
県内のアカゲザルの状況、県の外来種緊急対策事業 (アカゲザル) について説明

④アカゲザル防除説明会 (H24. 11. 7 南房総市 26 名参加)
参加者から、
・今年度大量捕獲されたが、引き続き捕獲すべき
・生息数が増加している。銃による捕獲を認めるべき。
等の意見があった。

⑤第 2 回ニホンザル及びアカゲザル合同作業部会 (H24. 12. 4 千葉市)
ニホンザル保護 (交雑モニタリング) 事業の結果及び公表について検討